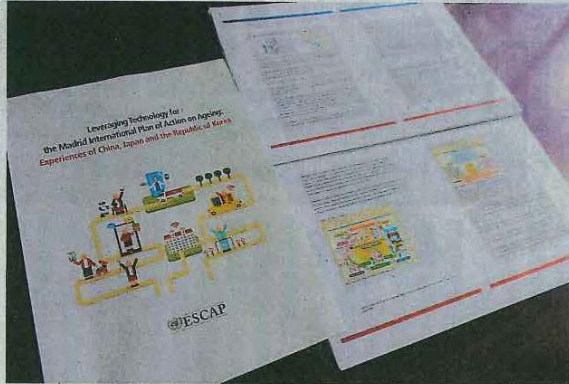


岩木健診とビッグデータの活用 取り組みに国際的評価



国連アジア太平洋経済社会委員会報告書の表紙(左)と、岩木健康増進プロジェクトの事例紹介を掲載したページ

報告書に掲載されるきっかけとなったのが、COIが昨年7月に受賞した日本国際交流センターの「第一回アジア健康長寿イノベーション」賞国内優秀事例賞(コミュニティ部門)。

センター職員が岩木健診を優秀事例として取り上げて

弘大COI

弘前大学COI(中略重之処点長)の取り組みが、国際連合(UN)の組織の一つで高齢者対策を行うアジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)の報告書に「健康とWell-being(幸福)へのテクノロジー活用」の優秀事例として掲載された。紹介されたのは弘大COIが15年以上継続している岩木健康増進プロジェクト(岩木健診)と健診で集めたビッグデータの活用事例。COIの取り組みが国際的な評価を受けたのは初めてで、関係者は「長年の取り組みを世界で役立てるための新たな一歩だ」と喜びに沸いている。

(石田紅子)

内閣府によると、同委員を目的とし、地域の重要な会は国連経済社会理事会の基盤作りに貢献している。地域委員会の一つ、域内外か、障害者・高齢者対策の経済関係を強化すること分野でも成果を挙げている

という。Well-beingとは心身と社会的な健康を意味する概念。

今回の報告書はテクノロジーを活用した高齢者支援の優良事例や、中国、日本、韓国の高齢化社会のための技術開発促進に関する政策紹介について取りまとめたもの。5月に韓国で開かれた同委員会の会議で発表された。掲載された事例は3国合わせて14事例、このうち日本は4事例が載り、COIの取り組みは4つにわたり紹介された。

報告書に掲載されるきっかけとなったのが、COIが昨年7月に受賞した日本国際交流センターの「第一回アジア健康長寿イノベーション」賞国内優秀事例賞(コミュニティ部門)。

センター職員が岩木健診を優秀事例として取り上げて

国連委員会報告書で「優秀事例」

関係者喜びに沸く

執筆したものが報告書に掲載された。

岩木健診は、開始した2005年から毎年約1000人が参加して3000もの項目を継続的に調査しており、そのビッグデータを解析することで認知症や生活習慣病などの早期発見、予防・予防方法の開発などを導き出すプロジェクト。ビッグデータを活用する点が「先駆的」で「テクノロジーがどのように高齢者の健康とWell-beingを向上させることができるかを示している」との評価を受けた。国連サミットで採択された。弘大COIは岩木健診と

同様に取り組んでいるQOL健診を海外にも広げようと、すでにベトナムで取り組みを始めている。ゆくゆくは身近な生活の中に医療がない発展途上国で役立てたい考え。

弘大COIは、開始した2005年から毎年約1000人が参加して3000もの項目を継続的に調査しており、そのビッグデータを解析することで認知症や生活習慣病などの早期発見、予防・予防方法の開発などを導き出すプロジェクト。ビッグデータを活用する点が「先駆的」で「テクノロジーがどのように高齢者の健康とWell-beingを向上させることができるかを示している」との評価を受けた。国連サミットで採択された。弘大COIは岩木健診と

同様に取り組んでいるQOL健診を海外にも広げようと、すでにベトナムで取り組みを始めている。ゆくゆくは身近な生活の中に医療がない発展途上国で役立てたい考え。

同様に取り組んでいるQOL健診を海外にも広げようと、すでにベトナムで取り組みを始めている。ゆくゆくは身近な生活の中に医療がない発展途上国で役立てたい考え。